

東京都南部心不全ネットワーク (JONAN Heart Failure Medical Collaboration: JHeC[♡]) による、心不全包括ケアを通じた循環型心不全管理の確立

木内 俊介 ●東邦大学 医学部内科学講座 循環器内科学分野 准教授



JHeC[♡]主幹施設会議後の集合写真

1. 背景と目的

心不全患者数は2030年に130万人に達し、以後は減少に転ずるが、入院患者数は2040年までは増加する。入院患者数の減少には自己管理の徹底が重要である。しかし、患者教育は各施設に委ねられており、各医療機関により教育方法や評価方法が異なる場合には、患者の判断に疑義が生じ、適切な行動は難しい。そのため、統一した教育による地区全体の心不全入院の減少や予後改善を目的として、2022年9月にJHeC[♡]を立ち上げた。また、2023年6月にはJHeC[♡]メディカルスタッフ会を立ち上げ、多職種での介入も開始した。これらの活動により、地区全体として心不全による入院を減ずることで、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

2. 取り組みの方法

各JHeC[♡]会員施設で心不全患者への患者教育を行う。医師のみではなく、薬剤師、看護師を含む多職種より多面的に教育を行い、その際にハートノートを用いる。付属された自己管理用紙を適切に管理し、(1)現在の状態を認識し、(2)自己管理用紙より算出された点数から心不全の状態を判断し、(3)

受診などの行動に移すことを目的とする。患者教育では、自己管理用紙の記載が十分であるかも医療従事者で確認する。JHeC[♡]は大田区および品川区にまたがるが、大田区だけでも約72万人の人口を抱え、医療施設は約500を数える。従って多くの医療機関の支援をいただく必要があり、医師会などとも連携している。

現状での課題は、(1)ハートノート/自己管理手帳の配布数、(2)活動の周知、である。COVID-19の影響などで“自己管理ができる患者”に患者教育が限定されることもあり、ハートノート/自己管理手帳の配布数は現状で500名に達していない。また継続率も約3割程度にとどまっており、“自己管理が難しい可能性がある患者”に対する介入や継続率を向上させる試みも検討している。こうした活動を城南地区の各医療機関に周知すべく、講演会やYouTubeの作成などを行っている。本助成によりホームページも作成し、さらに周知活動およびより良い活動のための情報交換を行う。

3. 期待される成果

地域で統一された心不全患者教育を行うことで、心不全入院回数を減ずる効果が想定される。入院回数の増加は予後悪化に関連するため、再入院予防は予後改善にもつながることが期待される。また、入院による臥床は患者の生活の質を低下させるため、この予防も可能である。これらにより地域の健康寿命の延伸につながることが期待される。